

# 日本史

【問題1】大化の改新の基本方針と具体的施策を述べた次の史料を読んで、下の問い（問1～問10）に答えなさい。（史料は一部省略したり、書き改めたりしたところもある。）

㉑（大化）二年春正月甲子の朔、賀正の礼畢りて、即ち改新之詔を宣ひて曰く、  
其の一に曰く、昔在の天皇等の立てたまへる  の民、処々の屯倉、及び、別には㉒臣・連・㉓伴造・国造・村首の所有る  の民、処々の田莊を罷めよ。仍りて食封を大夫より以上に賜ふこと、各差有らむ。降りて布帛を以て、官人・百姓に賜ふこと、差有らむ。……  
其の二に曰く、初めて㉔京師を修め、㉕畿内・国司・㉖郡司・関塞・斥候・防人・㉗駅馬・伝馬を置き、鈴契を造り、山河を定めよ。……  
其の三に曰く、初めて㉘戸籍・㉙計帳・班田収授の法を造れ。……  
其の四に曰く、旧の賦役を罷めて、田の調を行へ。……別に戸別の調を取れ。……凡そ調の副物の塩と贄とは、亦郷土の出せるに随へ。……

（日本書紀）

問1 下線部㉑の「(大化) 二年」の時の天皇として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 皇極天皇      ② 孝徳天皇      ③ 齊明天皇      ④ 天智天皇

問2  と  に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① ア 子代    イ 部曲      ② ア 陵戸    イ 雑戸  
③ ア 官戸    イ 家人      ④ ア 公奴婢    イ 私奴婢

問3 下線部㉒の「臣・連」に関する記述として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 臣は大王家から分かれたとされる一族の姓で、連は大王家とは祖先が異なるとされる一族の姓である。  
② 臣の多くは職掌を氏の名とし、連は大和の地名を氏の名としていた。  
③ 臣姓豪族のうち平群氏などの最有力者は大臣に、連姓豪族のうち大伴氏などの最有力者は大連に任じられた。  
④ 臣や連は家柄や地位を示す称号として大王が諸豪族に授けたものである。

問4 下線部㉔の「伴造」に関する記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 世襲的職務で朝廷に奉仕する品部やそれを支える伴と呼ばれる集団を率いて朝廷の職掌を分担する者である。
- ② 世襲的職務で朝廷に奉仕する伴やそれを支える品部と呼ばれる集団を率いて朝廷の職掌を分担する者である。
- ③ 国造の上位に位置づけられたヤマト政権の地方官のことであり、のちの国よりも広大なクニの支配権が保障されていた。
- ④ 国造の下位に位置づけられたヤマト政権の地方官のことであり、のちの郡程度の大きさのクニの支配権が保障されていた。

問5 下線部㉕の「京師」に関して、652年に完成した都として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 藤原京            ② 近江大津宮            ③ 飛鳥浄御原宮            ④ 難波長柄豊碕宮

問6 下線部㉖の「畿内」に関して、律令下で畿内に含まれる国の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 大和・山背・摂津・播磨・河内
- ② 大和・山背・摂津・播磨・近江
- ③ 大和・山背・摂津・河内・和泉
- ④ 大和・山背・摂津・河内・近江

問7 下線部㉗の「郡司」に関する記述として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 郡司は2～20里からなる郡の民政・裁判をつかさどった。
- ② 郡司は大領・少領・主政・主帳の四等官よりなる。
- ③ 郡司は旧国造ら在地豪族が任命されることが多かった。
- ④ 郡司の任期は当初6年、のちに4年となった。

問8 下線部㉔の「駅馬・伝馬」に関する記述として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 駅馬は、駅鈴を持つ公用の役人のみが利用できた。
- ② 駅馬とは、駅家に配された公用の役人が乗用する馬のことである。
- ③ 駅馬は、国府と地方の郡家を結ぶ駅路に、約30kmごとに配された。
- ④ 伝馬とは、郡家に設置された公用の役人が乗用する馬のことである。

問9 下線部㉕の「戸籍」に関する記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 戸籍は通常60年の間、保存された。
- ② 律令では戸籍は12年ごとの作成が規定されていた。
- ③ 戸籍には戸口の名・続柄・性別・年齢などが記載された。
- ④ 天智天皇のもと庚寅年籍が作成された。

問10 下線部㉖の「計帳」に関する記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 租・調を徴収するための基本台帳である。
- ② 庸・調を徴収するための基本台帳である。
- ③ 租・庸・調を徴収するための基本台帳である。
- ④ 租・庸・調・出挙を徴収するための基本台帳である。

【問題2】鎌倉幕府の成立に関する次の文章を読んで、下の問い（問1～問10）に答えなさい。

平治の乱の後、㉔平氏一門が繁栄するにつれて、後白河法皇や院近臣たちとの対立が深まり、1177（治承元）年には、鹿ヶ谷の陰謀がおこった。これを受けて、平清盛は後白河法皇を幽閉するなどして、権力を掌握した。しかし、清盛の強権政治は反発を招き、㉕1180（治承4）年、アが平氏打倒の令旨を発すると、各地の武士団が挙兵し、㉖5年にわたる源平の争乱がはじまった。

清盛の死後、平氏は源義仲に敗れて都から落ちのびた。その後、後白河法皇とむすんだ㉗源頼朝は、源義経らを都へ派遣して義仲を滅ぼし、さらに平氏を滅亡させた。この戦乱を契機として、地方の武士たちは、新たな政治体制を求めるようになった。

反平氏の武士団を束ねて有力な勢力へと成長した頼朝は、㉘鎌倉に本拠をかまえ、1183（寿永2）年に東国支配権を後白河法皇から公認された。平氏滅亡後の1185（文治元）年には、義経追討を名目として、全国に支配権を拡大した。そして、イ年には、征夷大將軍に任じられた。

㉙鎌倉幕府の機構は、㉚侍所・政所・問注所などの中央機関と、㉛守護・地頭といった地方機関によって組織された。また、幕府は、將軍と御家人の間にむすばれた㉜御恩と奉公の主従関係を基盤として成立していた。

問1 下線部㉔に関連する記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。11

- ① 平氏一門の盛衰を描いた『平家物語』は、琵琶法師が謡曲として語り継いだ。
- ② 『平家物語』の作者は、鴨長明とする説が有力である。
- ③ 平清盛は平氏一門の繁栄を願って『法華経』などを厳島神社に奉納した。
- ④ 平清盛は平治の乱後における平氏一門の繁栄を『平治物語絵巻』に描かせた。

問2 下線部㉕の「1180（治承4）年」に平氏が都を遷した福原の旧国名（X）と、現在の地名（Y）の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

12

- ① X—摂津      Y—神戸市
- ② X—摂津      Y—広島市
- ③ X—安芸      Y—神戸市
- ④ X—安芸      Y—広島市

問3 下線部㉓の「5年にわたる源平の争乱」の戦地として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 倶利伽羅峠
- ② 屋島
- ③ 壇の浦
- ④ 一乗谷

問4 下線部㉔の「源頼朝」に関する記述として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 北条政子を妻とする。
- ② 源義朝の子であり、源義経を弟にもつ。
- ③ 頼朝自身が多く知行国（関東御分国）や荘園（関東御領）を所有していた。
- ④ 平治の乱で讃岐に流された。

問5 下線部㉕の「鎌倉」に関する記述として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 三方を山に囲まれ、南方は海に面した要害の地である。
- ② 鶴岡八幡宮から海にのびる若宮大路が、鎌倉の中軸となっている。
- ③ 鎌倉五山は、徳川家康によって、はじめて幕府の官寺として定められた。
- ④ 鎌倉への物資の搬入を容易にするために、人工島の和賀江島が築かれた。

問6   に入る語句の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① アー以仁王      イー1190（建久元）
- ② アー以仁王      イー1192（建久3）
- ③ アー高倉天皇    イー1190（建久元）
- ④ アー高倉天皇    イー1192（建久3）

問7 下線部⑦の「鎌倉幕府」に関する次の記述Ⅰ～Ⅲについて、その正誤の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。 17

- Ⅰ 日本において、封建制度にもとづいて成立した最初の政権である。
- Ⅱ 武家の幕府と公家の朝廷が並び立つ二元的な支配体制であった。
- Ⅲ 鎌倉幕府の事績を幕府関係者がまとめた編年体の歴史書として、『大鏡』がある。

- ① Ⅰ—正 Ⅱ—正 Ⅲ—誤
- ② Ⅰ—正 Ⅱ—誤 Ⅲ—誤
- ③ Ⅰ—誤 Ⅱ—正 Ⅲ—正
- ④ Ⅰ—誤 Ⅱ—誤 Ⅲ—正

問8 下線部⑧の「侍所・政所・問注所」に関する次の記述Ⅰ～Ⅲについて、その正誤の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。 18

- Ⅰ 侍所は、御家人を統制し、軍事や警察の役割を担った機関である。
- Ⅱ 政所は、もっぱら訴訟・裁判を担当する機関である。
- Ⅲ 問注所は、一般政務や財政事務をつかさどる機関である。

- ① Ⅰ—正 Ⅱ—誤 Ⅲ—正
- ② Ⅰ—正 Ⅱ—誤 Ⅲ—誤
- ③ Ⅰ—誤 Ⅱ—正 Ⅲ—正
- ④ Ⅰ—誤 Ⅱ—正 Ⅲ—誤

問9 下線部⑨に関連して、この時代の守護の権限として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。 19

- ① 謀叛人の逮捕
- ② 殺害人の逮捕
- ③ 大番催促
- ④ 使節遵行

問10 下線部⑩に関連して、この時代の御恩と奉公に関する記述として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。 20

- ① 将軍が御家人にあたえる御恩として、もともとの所領を認める本領安堵がある。
- ② 将軍が御家人にあたえる御恩として、新しく所領をあたえる新恩給与がある。
- ③ 将軍への御家人の奉公として、御料所からの税の徴収がある。
- ④ 将軍への御家人の奉公として、戦時における軍役がある。

【問題3】 織豊政権に関する次の文章を読んで、下の問い（問1～問10）に答えなさい。

1560（永禄3）年、④今川義元を破った織田信長は、⑥徳川家康と同盟を結び、足利義昭から幕府再興のはたらきかけをうけると軍勢を率いて義昭とともに上洛を果たした。幕府を再興させた信長は、領国内の関所で通行料を取ることを禁じ、ついで商業都市として繁栄していた③堺の支配にも乗り出した。

しかし、しだいに義昭と対立するようになり、信長は敵対勢力への対応におわれることとなる。1573（天正元）年に義昭を京都から追放した信長は、1575（天正3）年に家康を助けてア氏を破った。その翌年には、琵琶湖畔に築城をはじめた④安土城の城下町をイとし、商業税の免除、普請や伝馬の負担も免除することで繁栄をはかった。1582（天正10）年にア氏をほろぼすと、東日本の大名の多くが服属の姿勢を見せたが、四国・中国地方の大名の攻略準備の最中に重臣・ウに背かれて本能寺で討たれた。

信長の重臣で、中国地方を攻略中であった羽柴（豊臣）秀吉は、ウを討ち、翌年には信長の最有力家臣であった柴田勝家を破って織田家中の実権を握るとエの跡地に大坂城を築きはじめた。信長の次男である織田信雄と、彼を支援する家康と戦うも、信雄と講和して臣従させた秀吉は、⑤関白に就任すると朝廷から豊臣の姓を与えられ、朝廷の権威を利用しながら諸大名を服属させていった。

越後の上杉氏や家康を臣従させた秀吉は、1587（天正15）年に南九州の島津氏を降伏させた。京都に築いた聚楽第にオ天皇を招いて諸大名に政権への忠誠を誓わせた秀吉は、1590（天正18）年に諸大名を動員して関東の北条氏を攻め滅ぼし、続いて東北の大名を服属させ、徳川氏を関東に移して全国の領主を支配下におさめた。

問1 下線部④に関連して、「今川氏」に関する記述として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。 21

- ① 足利一門として南北朝時代以来、駿河の守護として東海に君臨した。
- ② 今川一門の一人に、奥州探題に就任した今川了俊（貞世）がいる。
- ③ 義元の時代には遠江・駿河・相模の三か国を支配していた。
- ④ 義元の祖父・今川氏親が定めた分国法が『今川仮名目録』である。

問2 下線部⑥の「徳川家康」に関する記述として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。 22

- ① 元服後は松平元康と名乗った。
- ② 死後、九度山に葬られ、翌年に日光に改葬された。
- ③ 将軍職を退いた後も駿府で大御所として実権を握った。
- ④ 三河国岡崎城主の長子として生まれた。

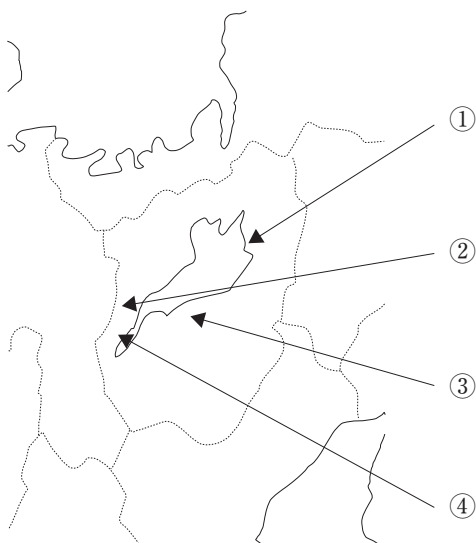
問3 下線部㉔の「堺」に関する記述として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。 23

- ① 15世紀後半より日明貿易・南蛮貿易で繁栄した。
- ② 会合衆による自治が行われた。
- ③ 河内国の港町である。
- ④ 秀吉の大坂築城にともなう商人の移住によって衰微した。

問4 アにあてはまる語句として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。 24

- ① 朝倉
- ② 斯波
- ③ 武田
- ④ 六角

問5 下線部㉕の「安土城」が築かれた場所として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。 25



問6 イにあてはまる語句として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。 26

- ① 金座・銀座
- ② 借上
- ③ 楽市
- ④ 六斎市

問7 にあてはまる人物として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 明智光秀
- ② 浅井長政
- ③ 斎藤竜興
- ④ 松永久秀

問8 にあてはまる語句として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 延暦寺
- ② 観音寺城
- ③ 信貴山城
- ④ 本願寺

問9 下線部㉔に関連して、平安中期以降の摂政・関白に補任される摂関家に関する次の記述Ⅰ～Ⅲについて、その正誤の組み合わせとして最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- Ⅰ 五摂家の家名は関係性の深かった天皇の諡号に由来する。
- Ⅱ 近衛・九条・鷹司・二条・一条の五摂家に分かれたのは鎌倉期以降である。
- Ⅲ 藤原式家は摂政・関白を独占し、「一の家」ともいう。

- ① Ⅰ—正    Ⅱ—正    Ⅲ—誤
- ② Ⅰ—正    Ⅱ—誤    Ⅲ—正
- ③ Ⅰ—誤    Ⅱ—正    Ⅲ—誤
- ④ Ⅰ—誤    Ⅱ—誤    Ⅲ—正

問10 にあてはまる語句として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 一条
- ② 近衛
- ③ 後水尾
- ④ 後陽成

【問題4】 明治・大正期の文学について述べた次の文章を読んで、下の問い（問1～問10）に答えなさい。

明治初期、江戸時代からの大衆文芸である戯作文学が人気を博したほか、㉑自由民権論や国権論などの宣伝を目的として政治小説が書かれた。こうしたなか、坪内逍遙は、1885（明治18）年、『小説神髓』を発表し、㉒新たな文学論を提唱した。逍遙の影響は、二葉亭四迷や尾崎紅葉、幸田露伴など広くにおよんだ。

日清戦争前後になると、㉓啓蒙主義や合理主義への反発から、ロマン主義文学がさかんになった。北村透谷らの雑誌『文学界』を中心として、小説では森鷗外や底辺の女性たちの悲哀を描いたア など、詩歌では島崎藤村や与謝野晶子などが現れ活躍した。また徳富蘆花（蘇峰の弟）は人道主義にたつ社会小説を発表した。

㉔日露戦争前後になると、フランスやロシアの影響により、人間生活の現実をありのままに描こうとする自然主義が主流となった。田山花袋や島崎藤村が代表的な作品を発表したほか、ロマン派詩人として出発した石川啄木も貧窮と流浪の生活を率直にうたった。また、正岡子規は俳句の革新運動をおこし注目された。

一方で、自然主義の隆盛に対立する形で作品を発表する作家もいた。たとえば、㉕夏目漱石は、知識人の内面を国家や社会との関係でとらえる作品を多く発表した。

㉖大正時代になると、大正デモクラシーの影響により、欧米諸国のさまざまな思想や文学が紹介されるようになった。退潮しつつあった自然主義にかわり、人道主義・理想主義を掲げる雑誌『白樺』を中心に活躍した㉗白樺派の小説家や、耽美的作風が人気を博した永井荷風や谷崎潤一郎、新思潮派と称された㉘芥川龍之介や菊池寛らが活躍した。中里介山や吉川英治らの時代小説、江戸川乱歩の探偵小説なども新聞や大衆雑誌に連載され人気となった。また、大正末期から昭和初期にかけ、社会主義や労働運動の高揚もあって、プロレタリア文学運動がおき、イ の『蟹工船』などが発表された。

問1 下線部㉑に関連して、自由民権運動を抑えるために政府が定めた法規として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。 31

- ① 讒謗律
- ② 集会条例
- ③ 治安維持法
- ④ 新聞紙条例

問2 下線部⑥の「新たな文学論」の説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 東洋の文芸理論をもとに、精神主義を提唱した。
- ② 東洋の文芸理論をもとに、写実主義を提唱した。
- ③ 西洋の文芸理論をもとに、精神主義を提唱した。
- ④ 西洋の文芸理論をもとに、写実主義を提唱した。

問3 下線部⑦に関連して、明治期に活躍した啓蒙思想家として最も適切な人物を、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 中村正直
- ② 吉野作造
- ③ 美濃部達吉
- ④ 北一輝

問4 に入る人物として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 山川菊栄
- ② 樋口一葉
- ③ 松井須磨子
- ④ 平塚らいてう

問5 下線部⑧の「日露戦争」の講和条約として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① ポーツマス条約
- ② 下関条約
- ③ パリ条約
- ④ ヴェルサイユ条約

問6 下線部⑨の「夏目漱石」の作品として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① のらくろ
- ② 高瀬舟
- ③ こころ
- ④ 貧乏物語

問7 下線部⑦の「大正時代」におきた出来事として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 関東大震災
- ② 満洲事変
- ③ 米騒動
- ④ 全国水平社の結成

問8 下線部⑧の「白樺派の小説家」として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 黒田清輝
- ② 有島武郎
- ③ 志賀直哉
- ④ 武者小路実篤

問9 下線部⑨の「芥川龍之介」の作品として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 羅生門
- ② 仮面の告白
- ③ 鼻
- ④ 河童

問10 に入る人物として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選びなさい。

- ① 井上日召
- ② 岸田劉生
- ③ 鈴木三重吉
- ④ 小林多喜二